

編集後記

冬も終わりに近づき、日本全国春めいた便りが聞かれるようになってまいりました。

しかし、日本の、特に経済状況はご承知の通り、氷河期のようなのです。

円・株・債券のトリプル安に見られる海外からの日本売りなど、いつの間にか世界経済にとって、「お荷物：日本」の様相を呈するようになってしまいました。

若い人の半数以上が、夢を持ってないと思っている状況から、そろそろ展望が見える状況に国を導いて欲しいと思わずにいられません。

あるいは、かつての経済大国に戻らなくても、この不況から脱出し、世界から信頼される政治大国に脱皮できる良い機会かも知れません。

アフガン復興会議の共同議長を務められた緒方女史のようなグローバルな視点を持った指導者がこれまで以上に求められるのでしょうか。

年初から暗い話が多かったのですが、ソルトレーク冬季オリンピック

における日本勢の活躍は、一服の清涼剤のような効果を私たちに与えてくれました。

長野オリンピックの印象が今でも強烈で、長野ほどメダルが取れなかったことに残念な気持ちもありますが、清水・里谷選手の連続メダル獲得など、今まで日本人が出来なかった事を成し遂げたことには、本当に感動いたしました。

次世代にこのパワーを引継いで欲しいと思います。

さて、今月号は「ITと建設の機械化」というタイトルで特集号を編集いたしました。

特集号の企画段階で、様々な提案の中から、最近、業界の各方面で取組まれている、工事へのIT活用について、報文をまとめることになりました。

いただいた報文は、全て地に足のついた、着実にIT活用を図った内容であり、編集委員の私たちも大変、勉強させていただきました。

大規模土工工事や環境が劣悪な中

での災害復旧調査・工事など、IT無くしては成立しない施工の紹介もいただきました。また、学術面と政策面から、活用・普及・展開への提言もいただくことが出来ました。

建設業界を取巻く状況はまだまだ厳しい状態が続くと予想されますが、IT活用は、そのような時代にも必要かつ発展させる必要があることを、今回の報文から、具体的に認識できたと思います。

経済における「ITバブル崩壊」に見られた、期待先行に陥らないように注意しながら、適用領域を広げる一助として今回の特集号がお役に立てば、と思います。

最後となりましたが、ご多忙中にも関わらず、ご執筆いただいた執筆者の方々には、改めて御礼申し上げます。

会員および読者の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。(原川・奥山・山口(喜))

No.625 「建設の機械化」2002年3月号 (定価)1部840円(本体800円)年間9,000円(前金)

平成14年3月20日印刷 平成14年3月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 玉光弘明 印刷人 山田純一

発行所 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; FAX (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

建設機械化研究所 〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154 (吉原郵便局区内)

電話 (0545) 35-0212

北海道支 部 〒060-0003 札幌市中央区北三条西 2-8 さつげんビル内

電話 (011) 231-4428

東北支 部 〒980-0802 仙台市青葉区二日町 16-1 二日町東急ビル

電話 (022) 222-3915

北陸支 部 〒951-8131 新潟市白山浦 1-614-5 白山ビル内

電話 (025) 232-0160

中部支 部 〒460-0008 名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル内

電話 (052) 241-2394

関西支 部 〒540-0012 大阪市中央区谷町 1-3-27 大手前建設会館内

電話 (06) 6941-8845

中国支 部 〒730-0013 広島市中区八丁堀 12-22 築地ビル内

電話 (082) 221-6841

四国支 部 〒760-0066 高松市福岡町 3-11-22 建設クリエイトビル内

電話 (087) 821-8074

九州支 部 〒810-0041 福岡市中央区大名 1-12-56 八重洲天神ビル内

電話 (092) 741-9380

印刷所 株式会社 技報堂 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-3-6